

# 2023年度(令和5年度)学校評価自己評価表

東朋中学校区	校番	福山市立大谷台小学校
最終更新日		2023年(令和5年)10月3日

## I 福山市

ミッション ビジョン	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。
---------------	---

## II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”	○課題発見解決能力 ○チャレンジ精神 ○よりよく課題を解決し、自分の生き方に生かす ○互いを認め、よりよい人間関係を形成する ○自分に必要な挑戦を選択してやってみる ○人や社会の役に立てたことへの喜びや達成感を感じる	○コミュニケーション能力(自己効力感) ○思いやりと感謝の心(地域貢献)
○コロナ禍で色々なことで努力してもらっている。 ○「子どもを育てる」という視点で地域と学校との関わりを増やしてほしい。 ○学校の様子が分からないので、様子が伝わるように工夫してほしい。	○「学校に行くのが楽しい」「安心して通っている」と感じている児童生徒の割合は91.3%(校区平均)であり、安心・安全で学校に楽しみを感じながら登校している。 ○「目標や方法を選びながら学んでいる」や「考えること、学びが面白い」と感じている児童生徒の割合は84.0%(校区平均)であり、選択・決定したり、対話をしたりしながら自ら学びを進めている。 ○昨年度も、コロナ禍のため、児童生徒が対面して交流することができなかった	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	○子ども主体の学びづくり(授業、児童生徒会活動、ボランティア活動など) ○体力や健康についての自己課題の解決 ○SDGs「住み続けられるまちづくりを」につながる生活科・総合的な学習の時間等の充実	
		中学校区として統一した取組等		

## III 自校

ミッション
人間性豊かに社会を生き抜く子どもを育てる
自律 ・ 尊重 ・ 挑戦

学校教育目標
学び 伸びる

現状
<p>&lt;児童生徒&gt;</p> <p>○「学校が楽しい」答える児童は、それぞれ90.3%であった。今後も、トラブルがあっても1日の終わりに納得して下校でき、保護者との連携を丁寧に行いながら、安心・安全な学校づくりを進める。</p> <p>○「貢献活動ができて」「自己の努力したことや成長したことを実感できた」と答えた児童は、それぞれ85.5%、88.7%であった。貢献の意味や具体的な貢献内容を児童と共有すること、行事等の振り返りを継続して行っていく。</p> <p>○「体を動かすのが楽しい」と答えた児童は、91.9%であった。朝のダンスタイムや週1回のロングタイム昼休憩で楽しく体を動かす機会や場を今後も設定していく。</p> <p>○93%の児童が朝食を食べて登校してきている。一方、十分な睡眠をとっている児童は70%であった。今後も元気もりもり週間の結果を児童と共有し、児童自身に課題意識を持たせる。</p> <p>&lt;授業&gt;</p> <p>○「学びが面白い」と答えた児童は、86.3%であった。今後も、児童自ら選択し、決定できる授業、自由進度学習やコース選択学習等、児童が自ら学習計画を立て、自ら学ぶ授業づくりを進めていく。</p>

育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”	課題発見解決能力	コミュニケーション能力	チャレンジ精神 (自己効力感)	思いやりと感謝の心 (地域貢献)	
めざす子ども像	5・6年	解決に向けて、主体的に選択・判断する	人の考えや気持ちを受け入れ、自分の意見や気持ちを表現する	結果の理由を次に生かしてやってみる	人や地域のためになることを考え、行動する
	3・4年	解決への方法を考え、見通しを立てる	人の気持ちを考え、自分の意見を理由をつけて伝える	得意なこと苦手なことやってみる	人や地域のためになることを考える
	1・2年	もんだいにきづき、かだいをたてる	じぶんのかんがえやきもちをいう	もくひょうをもつてやってみる	ひとやちいきにかんしゃのきもちをもつ

研究	テーマ	自己の伸びを実感できる授業づくり ～自ら挑む学習デザインと探究の循環を通して～
	主題・内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由進度学習に取組む単元の設定と授業づくり。</li> <li>思考過程が分かるノートづくりと日々の評価。</li> <li>学習の見通しや学習活動の目的、テストの日程の共有。</li> <li>新聞を活用するなどして、自分の思いや考えを文章にまとめる場の設定。</li> <li>学びや伸びを可視化する記録の蓄積。</li> </ul>
めざす授業の姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が自ら「なぜ?」「どうして?」「知りたい!」と学習課題を見つけ、見通しを持って粘り強く解決に取組み、学んだことをもとに自分の思いや考えを伝えることに挑戦できる授業。</li> <li>児童がP(計画)D(実践)C(評価)A(改善)サイクルの過程をつないで思考を深める授業。</li> </ul>

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点 分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)		
						目標に係る取組状況	70%以上 達成 評価	70%未満 改善 評価	改善 方策	目標に係る取組状況 ◎短期中期経営目標の達成状況	70%以上 達成 評価
2	子どもが主体的に学び合う授業の創造	★ 継続	・「分かる・できる」を実感し、自ら学び続ける授業づくり	①自由進度学習など、課題や学習内容を自己選択、決定する場を設定する。 ②学習や生活計画、学習活動の目的を児童と共有する。 ③自分の思いや考えを文章にまとめる場を設定する。 ④学んだことをもとに自分の思いや考えをまとめた作品や作文をキャリアログに記録する。	・国語(思考・判断・表現)、算数(知識・技能)において、学期末、学年末テストで80点以上の児童80% ・自分で課題を立て、自分で考えた方法で学ぶことができた児童アンケート80% ・1週間の計画やテスト日程等を事前に児童と共有する職員アンケート100%	3	4	・自由進度学習において学びを生かす体験を設定し、リフレクションでは成果を交流する。 ・自分の思いや考えを文章にまとめたものを交流する。 ・基礎学力の定着を図る大谷台CUPの実施。 ・学びの足あとファイルを継続して家庭と共有する。			
2	個性と多様性の尊重と、自己肯定感を持つ子どもの育成	★ 継続	・自己のよさや仲間のよさを感じることで育つ子どもの育成	①人の役に立てる行動(貢献行動)をレベル別に例示し、ロースマインド賞で表彰する。 ②各行事でのめあての設定と事後の振り返りを実施し、キャリアログに記録する。	・貢献レベル4を達成したと回答する児童アンケート85%以上 ・自己の努力したことや成長したこと実感できる児童アンケート85%以上 ・児童が主体的に取り組める授業や行事の内容を計画、実施し教職員アンケート100%	3	4	・教員からだけではなく児童同士でのロースマインド賞を企画実施する。 ・振り返りシートを活用し、行事でできるようになったことやがんばったことを記録し、自己の成長過程を可視化できるようにする。			
2	自主性・自律性の育成	継続	・自主的に体力づくりや健康づくりに取組む子どもの育成	①児童主体で考える外遊びの内容の充実。 ②体力向上コーナーの設置。 ③毎月の生活リズムチェックの実施。	・体を動かすのが楽しい児童アンケート95% ・生活リズムが整っている児童アンケート70% ・児童会や委員会を中心に外遊びの機会を増やして行うことができた。 ・生活リズムについて保護者よりを良い児童や保護者に知らせることができた。	3	4	・児童会や委員会など児童中心の外遊びに加え、児童が勝手に動きを察しみるから体験できるコーナーを設置する。 ・結果や生活習慣の大切さについて引き続き保健だよりやミニ保健で児童・保護者へ周知を行っていく。			
2	子どもの学びを支え、信頼される学校の実現	継続	・安心・安全な居場所づくり	①児童に寄り添った積極的な対話と保護者と丁寧な連携を行う。 ②多様性を認め、自身や他者を大切にすることを学ぶ。 ③オンラインや別室での学習等、個々にあった学習機会を選択できるようにする。	・学びが楽しいと答える児童アンケート97.3% ・子どもを安心して学びに励んでいると回答する保護者アンケート90%以上	3	4	・今後も保護者とのやりとりを記録に残し、丁寧に連携を行う。 ・大谷台ショータイムなど児童が個性を発揮する取組を行う。 ・児童が安心できる学習環境を選択できるようにし、安心できる居場所づくりに取り組む。			
			・個性を發揮し、自ら挑戦する教職員	①リフレクションにより、教職員自ら学び合い、高まり合う集団づくりを進める。 ②二部会と企画委員会を運動させ、組織として計画・立案・実施を行う。 ③業務改善により児童に向き合う時間の充実を図る。	・月に1回の振り返りレポートの作成 ・教職員での学びや児童との学びの中で充実感を得られていると答える職員アンケート90%以上 ・時間外研修時間45時間未満を100%	3	3	・引き続き、個々の実践を交流するリフレクションを継続する。 ・二部会⇒企画委員会⇒二部会(修正)⇒起案の流れを徹底し、見直しをもって業務を遂行する。			

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。